

令和元年度第2回佐賀県博物館及び美術館協議会における主な意見と対応状況

佐賀県立博物館・佐賀県立美術館

意見等	事務局説明	その後の対応等
I 令和元年度の事業実績について		
<ul style="list-style-type: none"> ● 「生物多様性」展は(パネルなど)とても文字情報が多い展示だった。夏休みの子ども向けということだったが、具体的にどのような年代を設定しているのか。 ● 設定年代は生物多様性について授業で学ぶ中学生から高校生以上向けである。 ● 小学生から中学生の理科で「生物多様性」について教えた経験があるが、先の展覧会パネルだけでは展示内容を理解しにくい。夏休みで子どもがたくさん来館する時期であったため、例えば小学生向けにはクイズのパネルを設けたりやプリントを配布するなど、企画の段階から補助資料を考案すべきではなかったか。また、展示は全国的なデータを提示しているようだったので、佐賀県のデータ示すパネルを追加するなどしたら、より良くなったと思う。 ● 小学生の地域ごとの来館実績はあったが、大人の地域ごとの来館実績はデータがあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 基本的な展示パネルは(国立科学博物館の巡回展のため)国立科学博物館のものを使用している。 ➤ 特別展や企画展にはアンケートを設けているため、限定された期間になるが、その結果からある程度はうかがうことができる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 例えば、(8月以降開催した)高取展で、唐津の文化をとりあげると唐津地域の来館者が増えたなど、効果が計測できるかもしれないので、今後教えてもらいたい。 		
<ul style="list-style-type: none"> ● ミュージアムキャラバン隊について(市町の)教育長に話したことがあるが、学校の動向など、(この事業の)内容がわからなかったため、(お話しして)非常に参考になったと言っている。そのため、学校だけではなく、例えば市町で情報を一元 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 学校にはインターネットを利用したネットワークを通じて案内をしているところである。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 令和2年度については、学校長あてに通知するとともに、新たに各市町の教育長あて通知した。今年度は9月から1月にかけて延べ45回派遣する

<p>化して交換できる校長会のような場などにも案内をすることを検討してはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● (市町の教育長によれば、) 学校は県庁を毎年訪問するけれども、博物館・美術館は訪問していないところもある。ただ、博物館・美術館を重要な施設だとは考えており、参考のために、各校の取り組み状況や全体状況を把握したいということだった。そのため、(市町の) 教育長にも事業内容と現状の報告をしたらよいのではないだろうか。 		<p>こととしている(令和元年度は延べ32回)。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 台湾でのアウトリーチ活動を始めた経緯を教えてください。 ● 体験参加者数のうち、佐賀から訪れる人はいるのか。 ● 来年度も計画があるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 令和元年度までに4度実施している。 台北を取り囲む大都市である新北市にある考古系博物館である十三行博物館が、宮崎や兵庫の考古系博物館と連携しており、その十三行博物館の館長がたまたま吉野ヶ里歴史公園や吉野ヶ里展示室の体験プログラムを視察されて非常に関心を持たれ、当初は招聘事業として始まった。昨年度3度目からは、県で予算化し、県文化課文化財保護室と当館から職員を派遣している。 台湾ではアウトリーチ事業が非常に普及している。十三行博物館というのは学芸員の多くがエデュケーターという教育普及に携わるスタッフで、考古担当の専門職員は一人程度しかいないような、特殊な博物館である。しかし、このアウトリーチ活動を出展しているイベントは、考古系だけでなく民俗系博物館も出展して、ブースが130ほど設けられる。イベント全体では1万人を超える人が集まり、開会式には市長が出席するような(力が入った)イベントである。 ➢ 現地の子どもたちが体験した数である。 ➢ 先方からの依頼があるかによる。 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 令和2年4月1日付けで、吉野ヶ里展示室の事業全般を一括して文化課(文化財保護室)に移管したため、本館では台湾でのアウトリーチ活動は継続しない。 なお、予算については活動費を令和2年度当初予算で計上しており、文化課に移管した。
<ul style="list-style-type: none"> ● 前年度は池田学さんの《鶴1》を購入し、今年度は同作家の《鶴2》を購入予定だということだが、今後は池田さんの作品を集めての常設展示を計画しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 《鶴》シリーズは、(当館所蔵の)《誕生》と密接な関係があるとともに、最新作でもある。また、《誕生》スピンオフ作品はそれとは別に7点存在しており、そちらも購入を希望し、体系的にコレク 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 令和2年度の資料購入候補資料として、池田学《誕生》のスピンオフ作品9点(うち2点はすでに購入済み)の内、残り

	<p>ションしようとしているところである。</p> <p>ただ、資料購入については、県内の県立博物館施設の資料購入希望をもとに、文化課で予算が配分されており、そちらの配分を待つことになる。池田学の出身地に所在する美術館として、《誕生》以外の作品も重要な収集対象とし、来館者の期待に応えたい。</p> <p>池田学は寡作のため購入できる機会は非常に限られるが、できるかぎり収集に努めたいと考えている。</p>	<p>の7点を一括して購入することを決定し、現在購入手続き中である(9月上旬に手続き完了予定)。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 先日、池田学さんが県庁を訪問されていたが、そのような際に次回の展覧会の下交渉などを行っているのか。 ● ぜひとも早い開催をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 今回の訪問は、岐阜県美術館の円空大賞受賞の報告と、福岡三越での展覧会の出品のためである。 佐賀県としては、高額で購入した岡田三郎助《裸婦》や池田学《誕生》のほか、所蔵する様々な作品を、いろいろなかたちで紹介していこうと努めている。池田学さんについては、再び展覧会を行いたいと考えている。現在新作の制作にとりかかっており、その完成がいつになるかわからないものの、それが次の展覧会の契機になるかもしれない。海外や国内各地からも池田学さんの展覧会開催の要望があるので、それらと調整をはかりつつ企画をしたい。また、大きな展覧会でなかったとしても、池田学さんの作品を取り扱うギャラリーが中心となって、ある程度の作品数による展覧会が開催される可能性はある。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 令和2年9月18日～11月3日の会期で、佐賀県立博物館50周年特別展「THIS IS SAGA」の関連企画として美術館コレクション展「海がいざなう物語」を開催する。同展の中で、池田学《誕生》及びスピノフ作品全9点も特別公開することとしている。
<ul style="list-style-type: none"> ● 数年後に佐賀で国体が開催される。かつて佐賀で若楠国体芸術展という美術展があり、県内作家が出品する展覧会(＝現代佐賀美術秀作展)が行われた。そのような機会に、(過去と同様に国体展を開催し、)岡田三郎助や池田学、それ以外にも物故作家、存命の作家をまじえて優れた佐賀の作家の作品で構成された、過去から現在を俯瞰できるような展示をしてほしい。数年後の話になるが、現在から作家の選出などイメージを持ってほしい。これは美術館や博物館が主導する事業となるだろうと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 国体は2023年だが、具体的な計画はまだない。 ➤ 博物館開館50周年展とあわせて、美術館も同時開催の記念展で、佐賀の美術の流れを俯瞰できるような内容のものを考えている。こちらはそろそろみなさんにお知らせできるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会佐賀県大会の開催に合わせた企画も検討していきたい。

II 令和2年度の事業計画について

<p>● 博物館開館 50 周年展はとても楽しみにしており、子供たちにもぜひ見てもらいたい展覧会である。昨年度の幕末維新博覧会ではバスの補助があったが、今回もそのような予算があると、遠方からも来てもらえる。特に(展覧会の内容から)唐津や伊万里からも来てもらえることが予想される。ぜひ予算化してほしい。</p> <p>ある週刊誌が、都道府県魅力度ランキングというものを掲載しており、佐賀は下から2位だった。これは魅力がないというよりも、魅力に気付いていないのだと思う。(今回の展覧会は佐賀の魅力を伝えるものだと思うので)ぜひ広報活動に力を入れてほしい。</p>	<p>➤ 残念ながら、バスは予算に計上していない。広報活動も手段を考案しているところである。</p>	<p>➤ 佐賀県立博物館 50 周年特別展は「THIS IS SAGA—2つの海が世界とつなぎ、佐賀をつかった—」と題し、佐賀の進取と創造の姿、「これぞ佐賀」という文化的特長を時代ごとに紹介していくものである。</p> <p>広報活動も、ポスター・チラシのほかにも、マス・メディア等を積極的に活用してできるだけ多くの方々に御覧いただけるようにしたい。</p> <p>会期中の毎週金曜日は、開館時間を2時間延長し、20時までに変更している。</p> <p>更に10月14日の開館記念日は無料開放することとしている。</p>
<p>● 広報活動は、どのような方法、どのような対象に向けて集客を図るのか、教えてほしい。先程言及された校長会は毎月行われているが、教育委員会、校長、さらにその下の人々にも周知をする方法を考えがあれば、教えてほしい。</p> <p>また、バスは市町村でも予算が組める。</p>	<p>➤ 具体的にはこれからだが、広報活動は現在考案しているところである。</p> <p>これまでにないような広報宣伝を行いたいと考えている。その結果として、広報を目にした観覧者が、展覧会で期待以上のものを感じて感動してもらえるような流れを生む、展覧会と広報活動をこれから具体化していきたい。アドバイスをいただければ幸いです。</p>	<p>これまで、高校生以下及び障害者手帳の所持者とその介護者1名を無料としてきたが、今回の特別展から新たに指定難病医療受給者証の所持者とその介護者1名も無料とすることとした。</p> <p>また、20名以上の団体、博・美メール会員、学生証(大学・専門学校等)提示の学生、本展の使用済み半券提示の方、17時以降入場の方、50周年にちなみ昭和45年(1970年)生まれの方、JTBベネフィット(えらべる倶楽部)会員に割引料金を適用することとしている。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ● 小学生を引率して博物館・美術館を利用する機会としては、小学校3年生の(授業でおこなう)「昔の道具」を見せる機会を利用ことが多い。実際に私も先日利用したが、本物を見せることで子どもたちに高い関心を持たせることができたと思う。 来年度の新教育指導要領では、従来4年生の社会で学習していた警察・消防が、3年生に組み込まれるため、博物館・美術館の近隣にある佐賀県警察本部および消防署から来るルートを検討して、遠方にも広報活動をおこなうと良いのではないだろうか。例えば、警察本部や消防署を見学したあと、昼食をとって、「昔の道具」を見れます、などと案内すると、利用が増加すると思う。 また、「昔の道具」の展示でも、体験型のアトラクションのようなものがあれば、子どもがより実感をもって学べると思う。 		<ul style="list-style-type: none"> ▶ 御要望に応じてね実際に資料に触れるプログラムを用意している。ただし、現在新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一時中断している。
<ul style="list-style-type: none"> ● 美術館ホールのピアノはホール開設当初からあるものだろうか？ ● 周囲に発表会で美術館ホールを利用したピアノの先生がいるが、もう利用しないと言っていた。なぜかという、ピアノが経年劣化しているように感じたからだという。弾くには問題ないのだが、一流の演奏家が弾くには適していないという。また、成果をもちこめないというルールも当初は知らず、計画どおりにならなかったためとも言っていた。 一方利用して良かったこととして、通常ピアノの発表会というものは教室関係者しか入れないということだが、美術館ホールを利用した場合は、一般のお客さんも見に来てもらえて、子どもたちにとって非常に励みになったという。 昨今は住宅事情が悪く、子どもたちは家で電子ピアノくらいしか触れられないという。そのような子どもたちにとって、美術館ホールのスタインウェイ・アンド・サンズのピアノは、初めてふれる本格的なピアノとして、非常に貴重な存在である。ま 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ そのままではなく、市村記念体育館にあったものを一時期使っていたことがある。 ▶ 当館のホールのピアノは、スタインウェイ・アンド・サンズ社のD-274、コンサートグランドという、このモデルとして最上級のもので、1992年11月に文化課で購入し、管理替えされたものである。購入から27年が経っているが、当ピアノは最上級モデルで大変優秀なピアノであり、大事に使用しながら、活用を図りたいと思っている。 同様のご意見をお客様からいただいたこともある。 将来ホールの改修もしなければならないのだが、多額の費用がかかることなので、ピアノについては更新も視野に入れながら、計画を考えていきたい。 	

<p>た、文化会館やアバンセと比較すると、美術館ホールの規模は日頃利用する会場として都合がよいものである。子どもたちが本格的な音楽の世界に踏み込むときに、美術館ホールとピアノの役割は皆さんが思っているよりも大きい、それが劣化しているのは残念なので、将来の可能性として更新も考慮に入れてほしい。ただし、お話を聞いたその先生ひとりの意見ではある。</p>		
<p>● どこでも同じだと思うが、保守点検、借りる方による調律を行っているはずである。</p>	<p>➤ 管理演奏をして、ある程度の質を保つメンテナンスもしているはずである。</p>	
<h3>Ⅲ その他</h3>		
<p>● 岡田三郎助アトリエは、生け花など、さまざまなイベントも開催していてよい雰囲気だ。アトリエは生前の岡田を偲んで見てもらうだけではなく、イベントをもっと行っていくと良いと感じた。</p> <p>また、茶室があることを知らない人もいると思うので、活用や見せ方を考えたら良いと思う。</p>	<p>➤ 茶室はもともとエアコンがなかったが、一昨年導入しており、快適な利用が可能になった。今後たくさん利用してもらいたい。</p>	
<p>● サガン鳥栖のアンダーチームで子どもたちが活躍するように、博物館・美術館も子どものサークルを組織すれば、子どもたちが長期間活動することで、子どもの愛着を育てるとともに、子ども・家族・友達がサポーターとなるのではないか。</p> <p>博物館開館 50 周年展でも、子どもの参加型の企画があると、周囲の人を巻き込んだ来館のきっかけとなると思われる。そのような企画を組み込めば、たとえ遠方であっても意識が高い子どもは来るだろう。</p> <p>(そのような参加型のイベントとしては、)単発というよりも、通年あるいは半年かかったもので、もっと博物館・美術館と深いつながりができるようなものを、いずれ検討してほしい。</p>	<p>➤ 博物館開館 50 周年展のイベントは現在企画中だが、体験できて面白いイベントを考える予定である。</p> <p>➤ 当館の歴史は長い、長年の懸案となっているものの、友の会のような組織はない。そのような子どものグループがサポーターとなって応援してくれるようなものは必要だと思うが、なかなか採用、実現に至っていないのが現状である。</p>	<p>➤ 学芸員資格取得のための博物館実習を毎年10～20名程度受け入れている。1～2週間の期間中、博物館・美術館の裏側の奥深くまで入り込み、学芸員や職業人としての濃厚な体験をしていただいている。聴講生に対する教育を更に熱を注ぎ、佐賀県立博物館・佐賀県立美術館の「ファン」「サポーター」や理解者となっていただけるよう努めていく。</p>